

アナリスト レポート

一部で弱さはみられるものの、
全体に緩やかな回復基調が続いている

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

県内景気天気図



凡例
 晴れ 晴れ一部曇り
 曇り 曇り一部雨
 雨
 前月比
 上昇・好転 横ばい
 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、はん用・生産用・業務用機械(なかでも運搬機械)や食料品(なかでも清涼飲料)、繊維などは上昇したものの、化学(なかでも化粧品)や電気機械(なかでも電子部品・デバイス)、金属製品などは低下したため、前年同月比では2か月連続で低下し、前月比でも2か月ぶりに低下した。

需要面では、百貨店・スーパー販売額は全店ベースで2か月ぶりに増加し、既存店ベースも22か月ぶりに増加に転じた。他の小売業態では、ドラッグストアの販売額は42か月連続の増加で好調が続く、家電大型専門店とホームセンターはともに2か月ぶり増加し、コンビニエンスストア販売額も4か月連続で増加しているため、小売業6業態計売上高は4か月連続の増加となっている。また、乗用車の新車登録台数は4か月連続で増加、軽乗用車の新車販売台数は5か月連続の増加となっている。新設住宅着工戸数は持家が6か月ぶりに減少したものの、貸家が2か月ぶりに大幅増加し、分譲住宅も3か月ぶりに大幅増加したため、全体では2か月ぶりに大幅増加した。一方、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は鉱工業用で4か月連続、商業用でも7か月連続でともに増加しているものの、サービス業用で5か月連続の減少となったため、3業用計では4か月ぶりに大幅減少した。また、公共工事の請負件数は2か月ぶりに増加

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、緩やかに拡大している。

個人消費は、緩やかに増加している。設備投資は、一段と増加している。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、横ばい圏

したものの、金額は4か月連続で減少している。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月比低下し、就業地別の有効求人倍率も高水準ながら低下した。また、常用雇用指数は6か月連続で減少し、製造業の所定外労働時間指数も2か月連続で減少している。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は在庫調整の進展がみられるものの、8月と9月の台風の影響から低下し、弱含みの動きとなっている。一方、需要面では民間設備投資と公共投資では伸び悩みがみられるものの、個人消費と住宅投資では総じて堅調に推移している。したがって県内景気の現状は、生産面での弱さはあるものの、需要面で底堅い動きとなっているため、全体に緩やかな回復基調が続いている。

今後の動向 県内製造業の生産活動は、台風の影響は徐々になくなるものの、米中貿易摩擦の影響がさまざまな業種で表面化してくることが懸念されるため、全体に弱含みの動きが続くと考えられる。需要面では、大企業を中心とした好業績による給与所得の増加などから底堅さはみられるものの、景気の先行き不透明感などから、力強さに欠けた状態が続くと思われる。したがって今後の県内景気については、国内需要は比較的堅調ながら、海外経済の不確実性やそれに伴う景気の不振懸念などから、緩やかな回復基調に足踏み感がでてくると考えられる。

内の動きとなっている。生産、輸出は、増加基調にある。労働需給は引き締まっており、雇用者所得も緩やかに増加している。

【日本銀行京都支店:「管内金融経済概況」(2018年11月9日発表)より】

「鉱工業生産指数」は

両指数ともに低下

- ・鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」(2018年9月)は104.9、前年同月比-3.9%となり2か月連続で低下。「季節調整済指数」は105.4、前月比-2.4%で2か月ぶりに低下。季節調整済指数の3か月移動平均値(8月)は106.4、前月比-0.5%で、4か月連続で低下。
- ・業種別季節調整済指数の水準は、「はん用・生産用・業務用機械」(160.9)や「食料品」(129.9)、「パルプ・紙・紙加工品」(118.7)などは高水準。一方、「窯業・土石製品」(61.6)や「電気機械」(75.5)、「金属製品」(81.7)などは低水準。
- ・前月との比較では、「はん用・生産用・業務用機械」(前月比+9.8%、なかでも運搬機械)や「食料品」(同+7.5%、なかでも清涼飲料)、「繊維」(同+6.9%)などは上昇。一方、「化学」(同-15.5%、なかでも化粧品)や「電気機械」(同-12.3%、なかでも電子部品・デバイス)、「金属製品」(同-7.6%)などは低下。

・「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」は、出荷は4か月連続で上昇(原指数107.9、前年同月比+0.8%)、在庫は3か月連続で低下(同125.5、同-8.3%)。業種別の在庫指数は「電気機械」(同-42.2%)で大幅低下。

鉱工業生産指数の推移(2010年=100)



小売業6業態計の売上高は

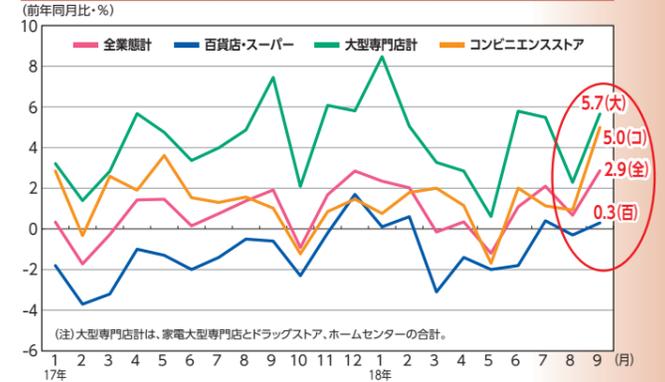
4か月連続で増加

- ・百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)(9月)は、20,601百万円、前年同月比+0.3%となり2か月ぶりに増加。品目別では、ウエイトの高い食料品は3か月連続で増加し(同+3.1%)、家電機器と家庭用品はともに2か月ぶりに増加したが(順に同+6.8%、同+0.9%)、衣料品は27か月連続で減少(同-6.4%)、身の回り品は9か月連続で減少(同-6.3%)。「既存店ベース(=店舗調整後)」では、食料品が3か月連続で増加し(同+3.7%)、家電機器と家庭用品はともに2か月ぶりに増加したため(順に同+9.0%、同+2.3%)、全体では22か月ぶりに増加(同+1.0%)。
- ・ドラッグストア(全店ベース=店舗調整前、9月、191店舗)は、5,559百万円、同+7.4%で、42か月連続で増加。「家電大型専門店」(同41店舗)は、3,295百万円、同+4.7%で、2か月ぶりに増加。「ホームセンター」(同60店舗)は、3,355百万円、同+3.8%で、2か月ぶりに増加。「コンビニエンスストア販売額」(同563店舗)は、9,973百万円、同+5.0%で、4か月連続で増加。

・小売業6業態計売上高(9月)は、42,783百万円、同+2.9%で、4か月連続で増加。

・乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)(10月)は、「普通乗用車(3ナンバー車)」は4か月連続で増加(1,673台、同+15.1%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」は2か月ぶりの大幅増加(1,280台、同+20.8%)。2車種合計は4か月連続で増加(2,953台、同+17.5%)。「軽乗用車」は、5か月連続の増加(1,937台、同+8.5%)。

百貨店・スーパー、大型専門店、コンビニエンスストアの小売業態別販売額の推移(前年同月比・%)



「新設住宅着工戸数」は

2か月ぶりに大幅増加

- ・「新設住宅着工戸数」(10月)は1,003戸、前年同月比+33.9%で、2か月ぶりに大幅増加。
- ・利用関係別では、「持家」は422戸、同-5.0%で、6か月ぶりに減少(大津市122戸など)。「貸家」は334戸、同+47.8%で、2か月ぶりに大幅増加(大津市123戸、彦根市71戸など)。「給与住宅」はなし。
- ・「分譲住宅」は247戸、同+212.7%で、3か月ぶりに大幅増加(長浜市103戸、大津市73戸など)。「一戸建て」は4か月連続で増加(146戸、前年差+67戸)。「分譲マンション」は3か月ぶりに大幅増加(101戸、同+101戸)。

新設住宅着工戸数の推移(利用関係別)

